

紙面から

教育随想

「小学生に英語コンプレックスは無い」

名古屋大学教授

高倍 鉄子氏

羅針盤

「総合的な学習の時間」に地域の講師さんを

城南小学校長

石原 博文

この人に聞く

地方史研究家 川澄 一夫氏

特集

整備の進む伊賀川

ふれあい

あやとり

甲山中学校

柴田 貴子

師弟同行

前竜海中学校長

小久保 良

城北中学校

宇土 勝馬

フォト・ヒストリー岡崎の教育

校舎移転(昭和五十一年)



月報

岡崎の教育

7月号

平成11年7月1日

発行/編集
岡崎市教育委員会

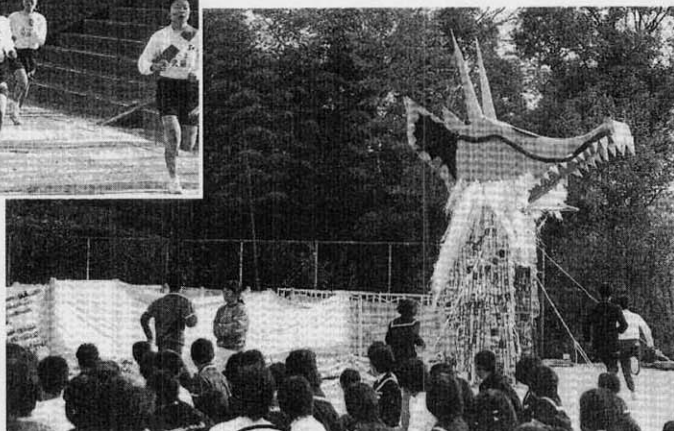


河川敷を利用して
タスキをつなぐ

長距離継走大会

生徒会が中心となつてつくる

文化祭のテーマ塔



この一瞬 龍となれ

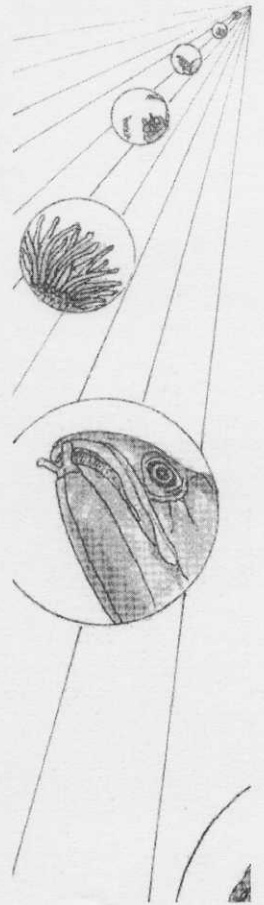


今月の学校紹介
～竜海中学校～

第2グラウンドと結ぶ

歩道橋





— 教育随想 —

小学生に

英語コンプレックスは無い

名古屋大学教授 高倍 鉄子

私の勤務する大学には、約千人の

外国人留学生が学んでいます。タイ、フィリピン、インドネシア、中国、韓国等と国籍は多様です。彼らは学内にある言語センターで三か月の日本語の研修を受け、日常生活に困らない程度の日本語を身につけて、専門の学業や研究に取り組みます。アジアのこれらの留学生にとり英語は日本人と同様に外国語ですが、彼らは英語に不自由していない。少なくとも日本人ほど英語に対するコンプレックスを持っていない。一方で日本人学生は英語を得意とする人も勿論いますが、特に理科系には外国人と会話出来ない英語コンプレックスを持つ人がかなりいます。私も約三十年前そうでしたが、今日のように国際化が叫ばれている時代でも事態は同じであることに事の深刻さを感じ

じます。

研究者は世界中の人と交流し、競争の先端に身を置かざるをえませんが、学術的な国際会議を同時通訳で行った時期もありましたが、外国人の評判は良くありませんでした。同時通訳者は研究の内容を理解していませんので、訳しているようで、訳していないという変な事になります。下手でも良いから直接英語で話して下さいと言われます。そう、上手に越したことはないのですが、下手でも良いのです。「大きい声」で話せば、とりあえず日本語で良いのです。実際、人種のるつぼであるアメリカでは、アメリカ英語、中国英語、韓国英語、タイ英語、バンングラデシュ英語、インド英語、フランス英語等で会話をしています。方言と思えば良いのです。また発音は生

粋の英語スピーカーに混じれば直ります。英会話には中学一年生の英語能力があれば十分です。つまり義務教育を受けた日本人は、英語が話せます。

そこで小学校の先生や保護者にお願ひがあります。一年生にアルファベットを教えて下さい。その後一日一単語ずつ英語を教えて下さい。そう、漢字と同じ要領で。一年やれば三百六十五単語。これで家族や友達と英会話が楽しめます。学校では、トラップなどのゲームを英語でやりましょう。高学年になれば、簡単な英語劇も楽しめるでしょう。それでもと勇気が出ない大人の方は、今は楽しい英会話用のCDが売られていますので、一年間勉強してからでも良いでしょう。ここであまり高度な英語を望みすぎて、自分自身や小学生を英語嫌いにさせないように、無理をしないことがコツです。ローマ字の学習はやめ、一年生に英語を日本人の手で教えてあげて欲しいのです。

言葉は心を伝える楽しいゲーム。上手下手を考える必要は全くないというのが、長い間英語コンプレックスに悩んできた私の結論です。普通の日本人自身が子供たちに英語を教えるようになったとき、日本は初めて国際化したと言えるようになるのではないかと、私には思えてならないのです。

(たかべ てつこ)



「総合的な学習の時間」に
地域の講師さんを

城南小学校長
石原博文

平成十一年度から、新学習指導要領の移行期に入る前の年として「総合的な学習の時間」をいかに行うかが問題となっている学校が多い。

本校は、平成八年度から総合的な学習にも発展できる内容と考え、「地域にねざした国際理解教育」の研究を行ってきた。当初、その実践のために先生方が費やした労力と時間は大変なものであった。もともと子供の活動量を増せば増す程、個性を尊重すればする程、先生に掛かる負担は多くなる。それ故、学校本来の使命である教科指導に影響が出た先生もいたと聞いた。今は大勢の地域の講師さんをお願いしているため、先生は子供の教科指導に力が入られるようになった。地域の講師さんを増せば、鶴川昇氏が『子供を喰う教師たち』で述べている「学校は、引

ふるさとシリーズ この人に聞く 川澄 一夫

地方史研究家

川澄 一夫 氏

青田に立つ川澄さんの写真、その背景には軒の高さまである水車が写っている。この水車の動力で米をつき、また、綿を紡いだという。

岡崎は一時期、ガラ紡の中心地として名をはせた。ガラ紡とは、臥雲^{がうん}辰致^{ちんぢ}によって発明された機械を使った紡績業のことであり、同時に、そこで作られた織物のことも指す。下級の綿や糸くずから独特の風合いの布が織れるとあって、戦後の物資不足の時期には、日本の紡績産業の最も重要な位置を占めた。三河の地が全国有数の綿作地帯であったこと、

紡績機の原動力となる水車を回すのに適した川があったことなどから、岡崎でも盛んになったという。

川澄さんは昭和二十四年から三十年近くガラ紡に携わり、日本和紡績工業組合の会長を務めるほどの深い関わりを持っていた。その一方で、「岡崎地方史研究会」の活動にも打ち込んでいた。その活動内容は、ガラ紡の歴史や身近な史跡の由来をひも解くことで、岡崎に生き、岡崎を育て、支えた人物について調査を進めるものであった。時には、子供のころから気にかけていた、ご自身の先祖をたどる調査もしたという。それらの研究成果を語る川澄さんの口調は、ご自身の調査に対する満足感にあふれていた。

「これでいいという結論がでないところがいい。自分の説を通すということは、新しいものを生み出すこと。資料を集めて自分の説を作り出すことは、警察が犯人を追いかける心境に似ている面白いものです。そして、こうした研究は、私でなければできないことだと思っています。」

「今は菅江真澄について興味を持つ

ていて、研究したことは小説という形にまとめたかと考えています。これなら誰かの説を盗んだなどと批判を浴びませんから。実は既に「雁は北へ帰る」と題して書き始めています。」

川澄さんは十代のころ、小説家を目指して菊池寛のもとを訪れたことがある。その時に「田舎なら田舎の小説が書ける。それも面白いものだ。もっと勉強してみろ」といなされたという言葉が、六十年余りの歳月を経た今、具現化されようとしている。

氏名 かわすみ かずお
生年月日 大正七年四月二十八日
住所 秦梨町字阿弥陀十七



き出しを多くし、生徒が互いに認め磨き合い、個性を尊重する経営をすべきだ」という言葉にもつながる。

しかし、地域の講師さんを招き、担任と子供たちで追究課題を決めている本校の方式で実践を継続するためには、幾つかの課題が残されている。その三つについて述べる。

一 特定の先生、学級の講師さんではなく、学校の講師さんになって頂くこと。

二 講師さんに教えて頂くと子供の活動が受け身的になりやすい。そのため、先生は子供の問題意識の明確化を図ること、講師さんとの事前の打ち合わせで子供側に立った学習過程案を作成すること。

三 先生には自分の興味関心に関係なく担任になった学年・学級の追究課題で指導してもらうこと。

更に、課題ではないが「総合的な学習の」を発展させるには、講師さんと先生により追究課題別コースを開設し、学級を解体し、子供がコースを選択する方法も考えられる。

ともかくにも、子供が学ぶための「引き出し」を多くし、基礎学力の低下を招かないで「総合的な学習の時間」を成立させるには、地域の講師さんは必要であろう。



▲現在の遊歩道①



▲昭和41年当時の伊賀川河畔〔「伊賀川を美しくする会」記念誌より〕

整備の進む

伊賀川

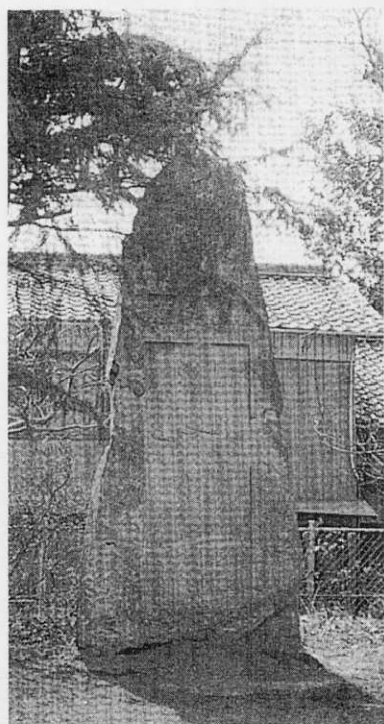
岡崎市の中心を北から南に流れる一級河川伊賀川。そのゆるやかな流れや心地良いせせらぎの音は、忙しい日々の生活に疲れた市民の心をいやしてくれている。

伊賀川はその昔、現在より西側を流れていた。急こうばいの川であり、大量の土砂が流れ込んで度々洪水を起こし流域の住民を悲しませたという。そこで額田郡会議員であった浅井浅次郎氏を中心に、伊賀川の流れを変えて洪水を防ごうという考えが生まれた。大正三年に始まった改修工事は大正四年に完了し、今見る伊賀川の姿になった。末広町にはこの改修工事を伝える記念碑が、木々に覆われてひっそりと立ち、その様子を今に伝えている。

こうした河川改修工事は、その後も続けられた。伊賀川沿いを歩いてみると、その細かい工夫に気づく。流れを緩やかにするとともに、川底の砂が流出しないようするために置かれた正方形の石。護岸を目的として整備された川岸のコンクリート。このコンクリート部分は、遊歩道として市民に親しまれてもいる。支流の小呂川には、川の流れを曲げるブロックが数多く見られる。これは川に酸素を取り入れるためのものである。またブロックの周りに生えた水草が川を美しくする働きをしている。伊賀川に架かる橋にも一つ一つ特徴がある。人が渡るといふ機能的な目的の他に、例えば、地域の人々の心を和らげる休息の場となるように、ベンチなどが備えられているものもある。

この川は「伊賀川を美しくする会」を中心に、大切に守られている。川沿いはきれいに清掃されており、静穏な状態が保たれている。また、伊賀川流域の小・中学校もこの会の主旨に賛同し、清掃活動に取り組んでいる。毎年、精力的に堤防や川の中のゴミ拾いなどを行っている。

春になると川沿いの桜並木が花開く。見事な景観を楽しみながら、遊歩道を親子連れが歩く。その姿を伊賀川はその流れのようなたおやかさで、市民の心の川として、いつまでも優しく見守ってくれることだろう。



▲改修工事の記念碑⑥
([伊賀川を美しくする会] 記念誌より)



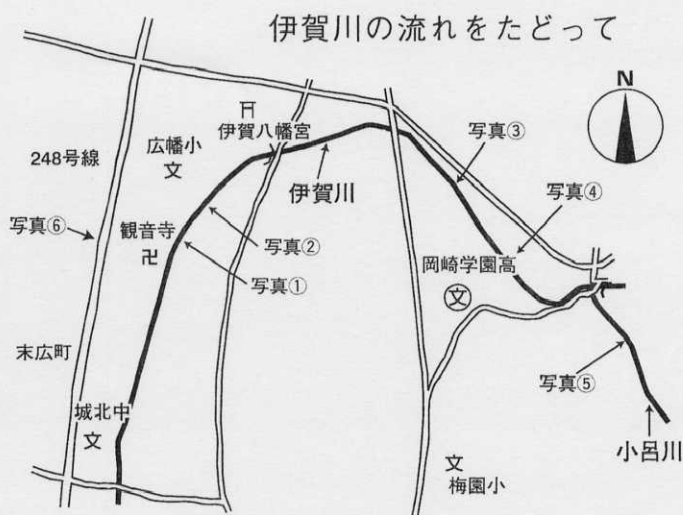
▲伊賀川を美しくする会の看板④



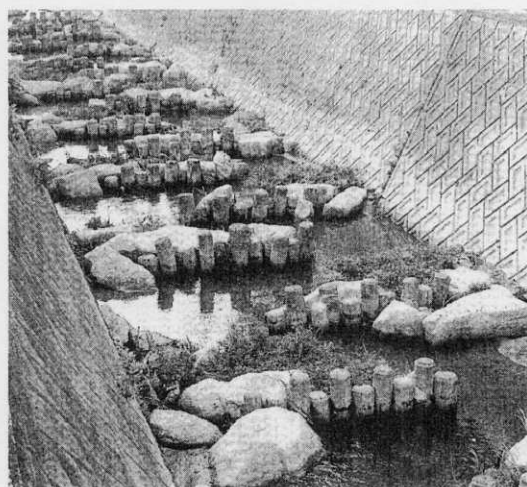
▲川底に置かれた正方形の石②



▲桜小橋③



▲伊賀川流域の学校の子供による清掃奉仕活動



▲伊賀川支流小呂川のブロック⑤

ふれあい

あやとり

甲山中学校

柴田 貴子

A男はクラスの中でもいばん背が高く、体格も良い。そんな彼の放課の過ごし方は、一人で読書かあやとり。

「明日からは、授業に関係のないあやとりのひもは、持っていないようにしようね。」

次の日、A男は輪ゴムであやとりをはじめた。大きな手が、輪ゴムで締めつけられていた。手首を見ると、数本の輪ゴムが巻かれていた。

この子にとってあやとりはただの遊び道具ではないのかもしれない。A男の気持ちも思うと、無下にあやとりひもを持ってこないように言ったことを悔いた。

近ごろ昼放課になると、A男は教室にいない。どこに行くのだろうと不思議に思い、そっと後を追ってみた。しゃ

がみこんでアリの巣を見つめるA男。その横へ私も座り込んだ。沈黙の中、ゆったりとした時が流れていく。

A男はこのゆったりとした時の世界の中で生きていくんだ。そのことが、空気からも伝わってくる。

私自身はといえば、時間に追われ、心に余裕のない日々を過ごしている。A男との出会いから、こういう時の過ごし方もあることを教えられた。

A男は、相変わらずあやとりをしている。でも私は、彼のゆったりとした時の流れを大切にしながら、彼なりの成長を見守りたいと思っている。



同師弟

かつこいい姿にあこがれて

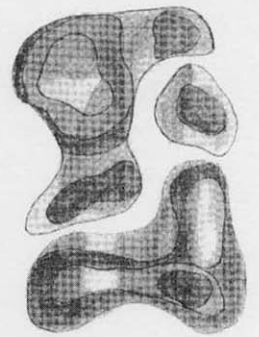
城北中学校

宇土 勝馬

夏休みの市長杯が終わるころになると、先生の刈谷球場での球審のりりしい姿を思い出します。

岩津中学校に入学して、何の迷いもなく野球部に入部しました。その時代は先生と先輩方の想像を絶する厳しさがありました。でも、三年間耐えて野球を続けることができたのは、スマートでかつこいい先生のプレーへのあこがれと、「うまい」と思った技術、少しでも吸収したいと思う気持ちがあったからです。

二年生の新人戦準決勝の前日、祖母の葬儀のため九州に行かなくてはならないことになり、先生の自宅まで報告に行きました。そのときに、



「心配しないでいいから行っておいで」と、声をかけていただけたことは、今でも忘れません。

教職に就いた自分が、まさか同じ職場で勤務できるとは思ってもみませんでした。生徒へのやさしい言葉かけの姿は以前と変わらぬ姿であり、うれしかったと同時に、見習わねばと思いました。

先生との五年間は、充実したものでした。これからもやさしいまなざしで見守ってください。

教学相長の日々

前竜海中学校長

小久保 良

「宇土！思い切って打て！」彼は、期待に応えて見事にクリーンヒットを打ちました。塁上で拳を上げた彼の気炎万

丈な姿は、現在、教師として児童生徒の為に奮励努力している姿と重なって見えます。

宇土君との出会いは、丁度岩津中学校が連続優勝を続けている昭和四十二年の春でした。運動場も無く、艱難辛苦の彼らが、常勝を重ねられたのは、単に、「試合に勝つ」という目的だけでなく、野球を通して「人間と人間との魂のぶつかり合い」を大切に、堅忍不拔な練習を自ら継続していたからでした。その中心が宇土君で、彼の臥薪嘗胆な精神力に感服していました。

試合後、控え教室の清掃とグラウンドの整備をし「先生、終わりました」ここまでが野球であると認識している彼らは、やはり、自覚・規律・礼節のあった部活動をしていましたので、寧ろ師弟同行というよりは私自身、教学相長の日々でした。宇土先生と同じ職場に勤めて共に下学上達できたことを感謝しています。宇土勝馬先生の「優しさ」と「厳しさ」をもって、さらなるご活躍を願っています。



お知らせ

◆FBC県春花壇中央審査

優良賞 細川小学校

◆FBC県春花壇付帯事業

・東山モデル設計図

中日賞 六ツ美中部小学校

・学校花壇設計図

愛知県教育委員会賞

六ツ美中部小学校

◆三好カップ国際レディース

カー大会

・二百Mカヤックシングル

優勝 新香山中 水野 理恵

・五百Mカヤックペア

優勝 新香山中 水野 理恵

前田 梓

◆第一回技術教育創造の世界

「情報基礎」学習成果コンテスト

県教育委員会賞

矢作北中 神谷 健

◆春季岡崎市民総合卓球大会

優勝 広幡小 完山 徳記

六ツ美北中 羽田 拓矢

矢作中 柴田 利沙

◆第43回岡崎市中学校総合体育大会の記録

●種目別競技

種目	性	優勝	2位	3位
陸上競技	男	矢作	六ツ美北	新香山
	女	六ツ美北	矢作北	矢作
バスケットボール	男	城北	矢作北	矢作 甲山
	女	竜南	南	矢作北 竜海
バレーボール	男	六ツ美	矢作北	矢作 竜南
	女	六ツ美	東海	矢作北 矢作
ソフトテニス	男	常磐	福岡	城北 竜海
	女	甲山	竜海	福岡 矢作
卓球	男	六ツ美北	竜海	常磐 矢作
	女	南	竜海	常磐 矢作
体操	男	竜海	甲山	
	女	矢作北	竜海	東海
新体操	女	甲山	東海	矢作
	男	福岡	城北	六ツ美北 甲山
剣道	女	六ツ美北	北	南 東海
	男	竜南	葵	城北 六ツ美
ハンドボール	女	竜南	六ツ美北	葵 美川
軟式野球	男	竜南	美川	南 岩津
ソフトボール	女	矢作北	矢作	南 城北
柔道	男	六ツ美北	甲山	矢作 新香山
サッカー	男	南	竜南	六ツ美北 北

●陸上競技(個人・1位のみ)

★大会新記録

性	種目	氏名	校名	記録
男	1年 100m	瀬戸 毅	福岡	13"3
	100m	鈴木 健太郎	六ツ美	11"7
	200m	難波 祐樹	六ツ美北	24"5
	400m	佐藤 桂介	新香山	54"7
	800m	川野 竜男	東海	24"6
	1年 1500m	吉開 裕祐	矢作	4'47"8
	2年 1500m	伊藤 正人	竜海	★4'19"9
	3000m	鷲見 知彦	常磐	9'27"3
	110mH	梶本 健太	常津	16"1
	4×200mR	藤井・谷田・山田・三治	矢作	1'37"1
女子	低4×100mR	小倉・近藤・水野・小島	矢作	49"3
	走幅跳	藤井 勇吏	矢作	★6m61
	走高跳	安藤 公志郎	新香山	1m75
	砲丸投	山田 裕起	矢作	13m60
	棒高跳	山田 裕起	矢作	★3m60
	1年 100m	日下部 かほり	矢作	13"7
	100m	内田 琴美	矢作北	13"2
	200m	山口 華奈	六ツ美北	27"5
	800m	長尾 時依	矢作	2'24"3
	1500m	小林 恵美	福岡	5'05"8
女子	100mH	堀 真弓	矢作北	15"4
	高4×100mR	小久江・堀・安藤・内田	矢作北	52"4
	低4×100mR	三好・鈴木・市川・鷹巣	南	54"5
	走幅跳	堀 真弓	矢作北	5m11
	走高跳	杉浦 由香	甲山	1m45
	砲丸投	畔柳 里恵	竜海	11m66



●体操競技

(個人・1位のみ)

性	種目	氏名	校名
男子	個人総合	清水 泰彦	甲山
	床運動	清水 泰彦	甲山
	鉄棒	中根 佳久	竜海
	跳箱	清水 泰彦	甲山
女子	個人総合	鈴木 美香	東海
	床運動	鈴木 美香	東海
	平均台	鈴木 美香	東海
	跳箱	鈴木 美香	東海

●柔道

(個人・1位のみ)

性	階級	氏名	校名
男子	軽量級	太田 敬介	竜南
	軽中量級	鈴木 寿昌	甲山
	中量級	坂元 徳仁	新香山
女子	重量級	斉藤 義将	竜南
	軽量級	森 沙弥香	六ツ美北
	軽中量級	澤田 美礼	矢作
	中量級	原田 真実	矢作

▲FBC中央審査で優良賞を受賞した細川小の花壇

フォト・ヒストリー 岡崎の教育

校舎移転

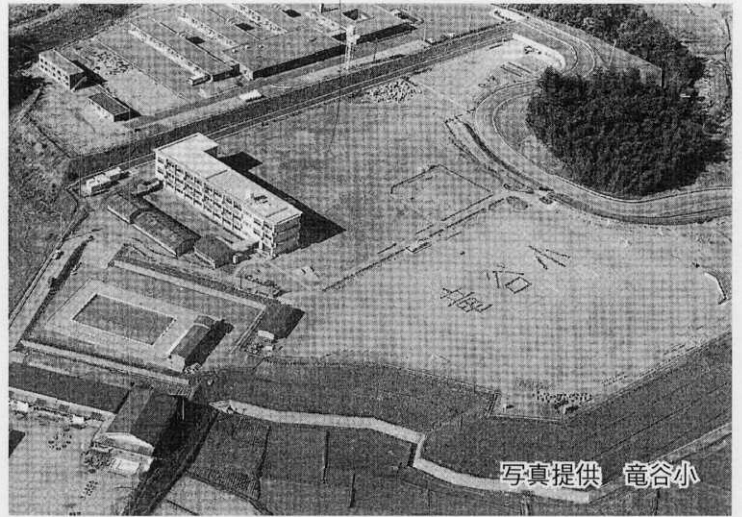
(昭和51年)

・カット

新香山中 宇野友啓

昭和五十年に、市内小中学校の校舎の鉄筋化率は五十パーセントほどになった。竜谷小学校は、昭和五十一年四月に現在の場所に校舎を移転した。新築移転当初は、まだ校舎が全部完成しておらず、プレハブ教室もあった。また、学校の敷地内には、今と違って草花や樹木が全くなかった。

以来、二十三年間に渡り、緑を増やす活動が学校、地域、PTAの手で継続されてきた。その努力が実り、平成十年度学校環境緑化日本一の栄誉を受けることができた。



写真提供 竜谷小



- * あなたの手のひら 星野 富弘 ¥1400
偕成社
- * 子供を喰う教師たち 鶴川 昇 ¥1500
プレジデント社
- * カラスは街の王様だ 大田 真也 ¥1800
葦書房
- * 総合的な学習の授業 日台 利夫 編 ¥2300
東洋館出版社

- * 課外授業 ようこそ先輩 NHK制作 ¥1400
KTC中央出版

各界の著名人の、母校の小学校に来て自由に授業を行う様子が、NHKのテレビで放送されている。本書は、それをまとめたものである。番組を見逃してしまっても、教科書もルールもないこの授業の迫力、また、子供たちの息づかいや輝いている姿が読み取られる。

人生を懸けて築き上げ、今もおチャレンジし続けている先輩である講師の意気込みに、魅力ある授業とはどういうものなのかを教えられる。

大水ではん濫していた昔が遠い夢のような穏やかな清流の流れ。伊賀川沿いは日々の生活がまるであうそのように、時が緩やかに流れていく。そこだけ別世界のようにだ。川沿いの遊歩道を歩いてみた。万緑の並木に身を包まれ、川に見つめられているように感じた。

辛抱強さがない子供が増えたと
言われて久しい。そうしたなか、
我慢することを知り、友と協力する心を
養う場として、部活動の意義は大きい。
最上級生にとって、最後の夏がやって
きた。それぞれの思いを胸に、精一杯の
試合をしてほしいと心から願う。

シ
オ
ス
ア

圧巻と言う他あるまい。膨大な資料に裏付けられ、歴史の細部がひも解かれていく。人の気づかなかった事実を足で稼ぎ、それらを突き合わせることで真実に迫る。一つの研究がまた新たな研究対象を呼び寄せる。岡崎が知識人をまた一人輩出した。

数千億個の星々の光が折り重なり、淡い輝きを放つ天の川。ベガとアルタイルの星伝説を楽しもうと見上げても、二つの星を隔てるその川は、人工の光のない暗い夜空でしかはつきりしない。本物と出会うために、いつも大自然に寄り添っていききたいものだ。